

令和2年度 第2回 (通算第47回)
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和2年11月27日 (金) 午後2時~3時00分
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ

2 議 事

〈 審 議 〉

(1) 令和3年度の企画展・シンボル展および令和4年度の企画展計画について 【資料1】

〈 報 告 〉

(1) 令和3年度の調査研究計画について 【資料2】

(2) 開催済み展覧会について (「かいじあむ+ (ぷらす) 展」) 【資料3】

(3) 資料・情報委員会の開催状況について 【資料4】

(4) 利用者状況について 【資料5】

(5) みんなでつくる博物館協議会の開催状況について 【資料6】

3 その他

閉 会

(終了後、企画展「未来へ伝えたい 甲斐の国のたからもの~新指定文化財・収蔵品展」視察)

令和3年度の調査研究計画について

令和3年度 新規研究候補

番号	種目	名称	担当者	時期	期間	備考
1	科研費 (基盤C)	近世造仏聖の造像意識に関する基礎的研究	近藤	2021～2023年度	3年間	
2	科研費 (基盤B)	辺境域における仏像・神像の所在と意義に関する調査研究 (研究代表者：早稲田大学 川瀬由照教授)	近藤 (分担)	2021～2024年度	4年間	
3	科研費 (基盤C)	大正・昭和戦前期における社会資本形成をめぐる地方実業家の動向	小畑	2021～2024年度	4年間	
4	科研費 (基盤C)	無形民俗文化財の活用及び教材化と「博・学・地域連携」の手法に関する実践的研究	丸尾	2021～2025年度	5年間	
5	科研費 (基盤C)	戦国大名家臣の存在形態と近世以降の動向に関する研究	海老沼	2021～2024年度	4年間	研究分担者：中野学芸員
6	科研費 (基盤C)	江戸幕府による藩の理念型—甲府徳川家支配期の甲府藩を事例に—	中野	2021～2023年度	3年間	
7	科研費 (基盤C)	浮世絵師の地方における活動の基礎的研究	松田	2021～2023年度	3年間	

令和 3 年度 (2021 年度) 基盤研究 (C) 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究 (C)
- 小区分 美術史関連
- 研究代表者氏名 近藤暁子
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 学芸課
- 職 学芸員
- 学位 修士 (文学)
- エフオート 15%
- 研究課題名 近世造仏聖の造像意識に関する基礎的研究
- 研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 3 年度	1,622	708	164	496	72	182
令和 4 年度	1,280	100	164	720	72	224
令和 5 年度	602	100	164	131	30	177
総計	3,504	908	492	1,347	174	583

○研究目的 (概要)

近世遊行聖の宗教活動は、廻国遊行に基盤を置きながらも、寺社建立の勧進や、地域の代参など社会的事業を担った様子も窺われ、その活動は多岐にわたる。特に信仰対象である仏を自ら制作する作仏行為は、彼らの宗教活動の本質を体現する重要な宗教活動であるとみなすことができる。

数多くいる作仏をその中心的活動に据えた遊行聖の中でも、木喰行道は自らの姿を像に刻む「自身像」を制作し、活動期の後半にはそれを群像中に安置することを行った。さらにその造形も、晩年に近づくとつれ頭光を表し台座に座る姿へと移り変わるが、それらはいずれも仏を示す表象である。このようなことから、木喰行道の「自身像」制作の背景を明らかにすることは、当時の造仏聖が信仰の対象である「仏」と「自身」との間にどのような関係性を構築していたかが色濃く反映されているものと考えられる。本研究では、木喰行道の彫刻作例の中での「自身像」の位置づけを考えることにより、造仏聖が有していた造像に対する意識について、造形的特徴を読み解く美術史的観点から明らかにすることを目的とする。

令和 3 年度 (2021 年度) 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究 (C)
- 小区分 日本史関連
- 研究代表者氏名 小畑茂雄
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 学芸課
- 職 学芸員
- 学位 修士 (史学)
- エフォート 25%
- 研究課題名 大正・昭和戦前期における社会資本形成をめぐる地方実業家の動向
- 研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 3 年度	1,835	1,040	305	217	200	73
令和 4 年度	954	100	224	357	200	73
令和 5 年度	846	100	224	282	167	73
令和 6 年度	1,347	100	360	147	167	573
総計	4,982	1,340	1,113	1,003	734	792

○研究目的 (概要)

近代日本の産業と社会資本の形成には、多くの財閥が中心的な役割を果たしている。そのなかでも、地方財閥と分類されるものがいくつかあり、地方の資本が特定分野の企業などを支配的な経営をした事例があった。東京の鉄道や電力といった社会資本の経営を握った「甲州財閥」も地方財閥のひとつに数えられるが、その財政的基盤は地域的な投資家の連合によって形成されていたことが先行研究によって明らかにされている。ところが、大正時代以降には東京地下鉄道を設立した早川徳次など、地主経営などの固有の資本を持たないにも関わらず、「甲州財閥」の事業群の一翼を担った存在が登場している。早川の地下鉄事業については、その成立過程についての研究もほとんどなされていないため、本研究ではこの早川徳次を中心に分析し、「甲州財閥」という地方財閥のあり方を捉えなおす作業とともに、日本初の地下鉄となったこの事業を、鉄道・交通史の位置づけから評価することにも取り組んでいきたい。手法としては、早川の事業形成の基盤となったであろう地域的なつながりを明らかにしつつ、その事業を財政面や政策面でサポートしたと考えられる学閥など、「甲州財閥」以外の集団との関係についての考察を実証的に行う。また、同時期の東京市会などの政界や都市政策を総合的に分析し、早川が地下鉄を実現したプロセスを、早川個人・各集団との連携・都市および交通の発達史の観点から、多面的に明らかにしていきたいと考えている。

令和 3 年度 (2021 年度) 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究 C
- 小区分 博物館学関連
- 研究代表者氏名 丸尾依子
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 山梨県立博物館
- 職 学芸員
- 学位 修士 (文学)
- エフオート 20%
- 研究課題名 無形民俗文化財の活用及び教材化と「博・学・地域連携」の手法に関する実践的研究

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
R 3	2,192	1,727	61	212	120	72
R 4	488	110	53	164	120	41
R 5	320	110	49	31	120	10
R 6	341	160	39	12	120	10
R 7	1,093	55	28	110	0	900
総計	4,434	2,162	230	529	480	1,033

○研究目的 (概要)

2020 年の学習指導要領改訂を機に、博物館に対する学校教育からの無形民俗文化財に関する資料の照会と、「出前授業」の要請が急増している。「学校教育と民俗芸能」の取組みに対しては民俗学や教育学から考察が行われてきたが、博物館における関心は、教材化よりも記録映像の作成や後継者養成に向けられてきた。さらに、無形民俗文化財に関する資料・情報の活用と公開に対する要請も高まっているが、研究成果はほとんど見られない。

博物館が行う無形民俗文化財の調査研究は地域の人々との相互連携なしには成立し得ず、学校教育に対しても博物館資料や研究成果を活用した出前授業などが行われている。日常的に「地域連携」「博学連携」を行う博物館において、「博学連携」における資料と情報の活用・公開は博物館資料論・情報論に関わる課題であるとともに、「博学連携」や「地域文化の教材化」は博物館教育論、地域博物館論に関わる課題である。

本研究は、このような博物館の研究環境を活かした実践研究である。主として「博学連携」において無形民俗文化財を取扱うための課題を把握するとともに、無形民俗文化財関連資料・情報の活用と教材化の手法と、効果の検討を行う。この過程を通じて新たな「博・学・地域連携」のあり方を構築し、その連携における地域博物館の役割を考察する。

令和3年度(2021年度)基盤研究(C) 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究(C)
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 海老沼真治
 ○研究分担者氏名 中野賢治
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 学芸課
 ○職 学芸員
 ○学位 修士
 ○エフォート 30% (分担者 10%)
 ○研究課題名 戦国大名家臣の存在形態と近世以降の動向に関する研究
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和3年度	1,678	1,320	150	100	80	28
令和4年度	816	200	50	280	200	86
令和5年度	906	200	70	300	200	136
令和6年度	782	150	30	140	80	382
総計	4,182	1,870	300	820	560	632

○研究目的(概要)

戦国大名研究、戦国大名家臣研究は、関係史料の収集・編纂が進められる中で大きく進展し、とくに近年では家臣の家に代々伝わった文書群(家伝文書)の存在が注目されている。

本研究では、戦国大名の中でも近年新出史料の確認が進んでいる甲斐武田氏の家臣関係史料を主な素材として、特に戦国期の大名発給文書等の一次史料と、近世以降に作成された系譜等の二次史料を重点的に収集する。またこれら史料の総合的な調査・分析を通して、戦国大名家臣の系譜関係や身分など存在のあり方を明らかにするとともに、家臣たちの近世における動向や、系譜類作成の背景等を考察する。これにより、①戦国大名家臣研究の基礎資料の整備・充実化を図り、大名家臣団の構造を詳細に追究すること、②家臣の近世における動向の分析から、中近世移行期武家社会の特質を見出すこと、③戦国大名家臣研究における系譜史料の意義を明らかにし、研究に活用するための方法論を構築することを目指す。

令和 3 年度 (2021 年度) 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究(C)
- 小区分 日本史関連
- 研究代表者氏名 中野 賢治
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 山梨県立博物館
- 職 学芸員
- 学位 修士 (文学)
- エフォート 20%
- 研究課題名 江戸幕府による藩の理念型—甲府徳川家支配期の甲府藩を事例に—

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 3	1,260	770	200	108	122	60
令和 4	618	0	200	216	142	60
令和 5	618	0	200	216	142	60

○研究目的 (概要)

本研究では、江戸幕府によって17世紀後半に新たに創出された藩を事例に、幕府が構想した藩の理念型を探る。徳川綱重・綱豊(家宣)の2代、約50年にわたって甲斐国・信濃国などの諸国を広域的に支配した甲府徳川家支配期の甲府藩について、行政機構の人的構成を中心に、その藩政の基礎的事実を明らかにしていく。甲府徳川家や甲府藩への言及は、各地の自治体史に散見されるものの、先行研究では徳川將軍家との関係に着目するものが多く、支配の実現過程への言及は断片的なものにとどまっている。そのため藩政の実像はほとんど明らかになっていない。そこで本研究では、まず甲府藩の藩政についての基礎的事実を提示すべく、地域に所在する史料の分析などを通じて、藩領における役人たちの多様な活動を明らかにする。その結果を、複数の国にまたがる藩領支配の一事例として、甲府藩領の他地域や他藩の支配のあり方と比較し、甲府藩領の支配の特徴を示すことで、藩の理念型に迫る。

令和3年度（2021年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 美術史関連
 ○研究代表者氏名 松田 美沙子
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 修士
 ○エフォート 30%
 ○研究課題名 浮世絵師の地方における活動の基礎的研究
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳（千円）				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和3年度	1,430	864	110	345	71	40
令和4年度	1,509	216	90	1,021	142	40
令和5年度	1,299	216	90	211	142	640
総計	4,238	1,296	290	1,577	355	720

○研究目的（概要）

浮世絵研究の主軸は、絵師が手がけた版画作品を中心とする作品論であり、役者絵や美人画が研究の主であった。そうした江戸の華やかな浮世絵文化に関する“トップダウン”の研究は行われているが、今まであまり取り上げられることのなかった、浮世絵師の地方での活動に関する考察、いわゆる“ボトムアップ”の研究がなされているとはいいがたい。

本研究では、従来あまり注目をされることのなかった、地方における江戸の浮世絵師の活動に焦点を当てる。絵画資料のみならず、歴史資料からも言及して“地方と絵師”という関係性から調査を進め、従来“江戸”という視点で捉えてきた浮世絵師の新たな一面を見いだす。

また、既存の研究データも含め、本研究で調査した研究成果を総合的にまとめ、今後の浮世絵研究を飛躍的に前進させることが可能となる、浮世絵師の地方における活動内容に関する基礎データの作成を目標とし、こうした地域史を学問化すること最終目的とする。

常設展拡大展示「かいじあむ+（ぶらす）」 終了報告

1 概要

【内容】

令和2年（2020）初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言の発出などの事態に伴い、山梨県立博物館においては2月末より5月中旬まで展示業務を休止し、春から夏に開催を予定していた開館15周年記念特別展「北斎漫画」および「特撮のDNA」、シンボル展「生誕200年 若尾逸平」の開催中止を余儀なくされた。展示業務の再開後も、常設展示室内の引き出し型ケースやタッチパネル、VRゲームコンテンツなど接触を伴う展示については、サービスの提供を休止せざるを得ない状況が続いた。

こうした状況下において、来館する展示利用者に対する展示内容の量的な制限に対する補填や、社会状況に対する博物館活動が応え得るひとつの回答として、企画展中止で使用予定の空いた企画展示室を活用した常設展拡大展示の開催を企画・実施することとした。

常設展拡大展示「かいじあむ+（ぶらす）」においては、ケースの配置をはじめとした動線、室内換気の促進、ソーシャルディスタンスの確保、イメージカラーを医療従事者を応援する青を基調とするなど、新型コロナウイルスの感染拡大状況に対する配慮を念頭に計画を推進した。展示内容については、基本的には初公開を数多く含む館蔵品を展示することで、展示利用者にとっての見応え感を確保し、豊富な館蔵品という財産を示す機会とした。また、9つのテーマごとに山梨県の歴史・文化に親しみつつ、災害や戦乱、疫病などを乗り越えて来た人々や地域社会のあゆみに触れることができるものとした。そのほか、動線や理解促進について配慮した展示パネルやキャプションの製作と設置、PDFファイルによるリーフレットの配付など、新たな利用者サービスにもチャレンジした。

【開催要項】

- 開催期間 令和2年6月17日（水）～9月7日（月）
会期日数 83日（開館日数 72日）
- 主催 山梨県立博物館
- 観覧料 常設展観覧料 一般520（420）円、大学生220（170）円
※（）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【主な展示資料】 展示資料数 56点（展示替え資料を含まない。）

- ニホンオオカミ頭骨 江戸時代か
- リニア高川トンネル産出第三紀化石 約700万年前 山梨県指定文化財
- 宮ノ前（七日子）遺跡出土土器 縄文時代中期ほか
- 富突き錐・木札（甲州文庫） 江戸時代
- 中村不折筆「甲州文庫」扁額（甲州文庫） 昭和5年（1930）
- 歌川国芳筆 菓子袋（升太の広告集・甲州文庫） 江戸時代
- 甲州道中分間延絵図（写本） 江戸時代（19世紀）か

- 加賀美光章書蹟（甲州文庫） 江戸時代（19世紀後半）
- 山梨市市川地区のオコヤ 平成17年（2005）
- 疫病除守札（甲州文庫） 江戸時代
- 政府配付の布製マスク（個人蔵） 令和2年（2020）
- 死体解剖御願（寄託資料） 明治30年（1897）
- 観音菩薩立像（安楽寺蔵） 平安時代（10～11世紀） 笛吹市指定文化財

【関連イベント】

- 開催せず。

【発行物】 リーフレット A4・40頁（館内編集、PDFデータ配付）

2 入場者数

【入館者数】 5,217名（1日平均入館者数：72名）

3 総括

- ・館内アンケートは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため撤去されており不実施。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場構成においては可動壁の設置は通常とは異なり、建築壁や可動壁間を大きく間隔を取ったものとして（仕切りとしてパネルや結界を活用）、密閉空間や室内で空気の滞留が発生しないような配慮をした。
- ・動線については、展示利用者の流れが乱れて利用者間が接近しないように、常に進行方向の片側だけを見ながら進めるように配慮し、島的なケースの設置を避け、次の展示物が分からなくなるないように、展示コーナーはカラーシンボルで視認できるようにし、展示コーナー間のつながりにも配慮した。どうしてもコーナー間の間隔が開く場所（1か所）には、「あちらの方向にお進みください」といった通常の順路サインだけでなく、「次はこちらへおいでください」といった目指す場所が視認できるような「受け」のサインも設置した。
- ・イレギュラーな展示であり、多くの展示利用を誘導・勧奨することが新型コロナウイルス感染拡大を招来させることにつながるリスクもあり、広報活動は「自粛」気味に取り組み、ポスター・ちらしは館内製作のものを館内やごく一部の場所に掲出・配付するにとどめた。ただし、在宅者向けの展示内容の発信は、SNSなどを通じて積極的におこない、資料や展示内容について高頻度で発信した。
- ・ポスター・ちらし同様、イレギュラーな展示であることから印刷費がなかったが、展示内容についてのリーフレット（A4・40ページ）を製作し、展示室の入口と出口にQRコード付き案内パネルを設置して、ペーパーレスの展示案内書を配付という、従来実施していなかった手法にも取り組んだ。
- ・展示内容や資料・作品の選品には、今回館蔵資料中心となることから、これまでの企画展・シンボル展で出品機会がなかったもの、当館の常設展示のテーマ設定から外れているテーマやジャンルに関する資料、形態が展示しづらい資料などを中心とした。

また、当館のメインテーマである「山梨の自然と人」を、従来の常設展示室のテーマ設定以外の角度から迫ることを目的にしつつ、新型コロナウイルスで疲弊する社会を応援するようなテーマ、「新しい生活様式」のなかで歴史を通じた疑似体験を紹介するようなテーマ、かつての人々も困難を乗り越えて来たことを歴史資料・美術作品から伝えることで、困難な情勢を乗り越える智恵や知見を提供しようとするテーマなどを設定し、かかる情勢のなかで博物館が社会にどのような貢献ができるかを考慮しながら、展示の準備と構成をおこなった。

- ・利用者は緊急事態宣言下からの解除から間もないことや、第2波の到来などもあって夏季としては少ないが、冬季シンボル展開催時程度の利用者数を得ることにつながった。
- ・少ないながらも、県立博物館に「こんな資料（作品）があったのか」といった感想をいただくこともあり、また角度を変えた展示を準備する過程において、展示を担当する学芸員も、改めて館蔵品を見つめ直す機会になったことも指摘できる。

令和2年度第1回（通算第31回）
山梨県立博物館資料・情報委員会の実施について

1. 開催期間 令和2年8月26日（水）から9月18日（金）まで
2. 開催方法 新型コロナウイルス感染症対策として書面により開催
3. 対応者 新津委員長 鈴木（麻）副委員長 新井委員 黒田委員 小島委員
鈴木（卓）委員 内藤委員 西村委員 ※委員8名全員
4. 傍聴者等の数 書面による開催のためなし
5. 議題

(1) 購入案件 三国第一山之圖 歌川貞秀筆 3枚続 1点

歌川貞秀（玉蘭斎貞秀）の手による、大判錦絵縦3枚続の作品。山梨側からの富士登山の様子が表されており、当館所蔵の静岡側からの富士登拝を描いた「三国第一山之圖」（美-2015-000-000002）とは対になる作品である。

※特別展「甲斐の国のたからもの」で展示

価格評価額 200,000 円

提示価格 181,818 円

委員からの意見
本資料と対になる資料をすでに、本館が収蔵していることからいっても、購入資料として承認いたします。
購入に適切な史料と思います。
既収蔵の静岡県側からの富士登拝図と対となる作品であることから、比較展示を実施することや富士信仰研究資料として活用することが期待できる。購入は妥当である。
登山成就とあるように、富士登山の情景が実感をもって描かれており、当時の富士信仰について一般の方々にも実感しやすく、また、静岡側の富士山図と対であるのも重要であり、収蔵すべき作品であると考えます。
絵師貞秀の錦絵三枚続で、収蔵品と表裏をなすもの。幕末版画は入手し難くなりつつあり、富嶽を描く作品は積極的に収集されるのが望ましく思われる。
吉田口（北口）、須走口（東）からの登山様子が描かれるとともに、小御岳及び宝永山の状況もわかる。富士信仰を探る上でも大切と思われる。
展示に利用したら注目を集めると思いますので、購入でよろしいと存じます。

(2) 寄贈案件 奥水家資料 約450点

巨摩郡長澤村（北杜市高根町長澤）に居住した奥水家に伝わる近世～近現代の資料。近隣の浅川口留番所関係の資料が含まれる点が特徴のひとつ。

委員からの意見
近世から近代にかけての村役人の資料として、貴重なものである。
奥水家に集積された資料群が一括収集できることは貴重なことである。受贈は妥当である。
点数が多く整理は大変かと思いますが、展示等にお役立てになられるものと存じます。
近世から現代に至る重要な資料群であり、寄贈をお受けすべきかと思えます。
近世以降の地方文書等が中心で、通行史研究に資する史料も多数含まれる。その他同家に伝わる資料を一括で寄贈は有難い話である。
八ヶ岳山麓の村にかかわる役所関連の資料として貴重と思われる。
地域の古文書や資料としてぜひ寄贈を進めて下さい。

(3) 寄託案件 六字名号 木喰作 1幅

中央に「南無阿弥陀仏」と大書した書画。「明満仙人」の署名がある。「九十才」と明記されており、文化4年（1807）、晩年の頃の作と知られる。

※特別展「甲斐の国のたからもの」で展示

委員からの意見
制作時期や名乗り、伝来などからも資料の価値は高い。
木喰の最晩年の作例が寄託されることで、木喰研究の進展に資することが期待できる。寄託受入れは妥当である。
寄託を受けるにふさわしい資料と存じます。県博の安定した環境で保管されること有意義と考えます。
木喰自身またその信仰を考える上でも重要な作品であり、寄託をお受けすべきかと思えます。
木喰最晩年の書跡。山梨は新潟に次ぐ木喰仏の伝来多い土地柄であり、寄託にふさわしいと思量される。
本県にとって木喰上人関係の資料は、大変必要なものであり、特に行道をはじめ、仏像関係は、これまでも収集や展示が積極的に行われてきた。今回は余り多くない書画の資料であり、大切に保管すべきと考える。

県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和2年10月末日まで

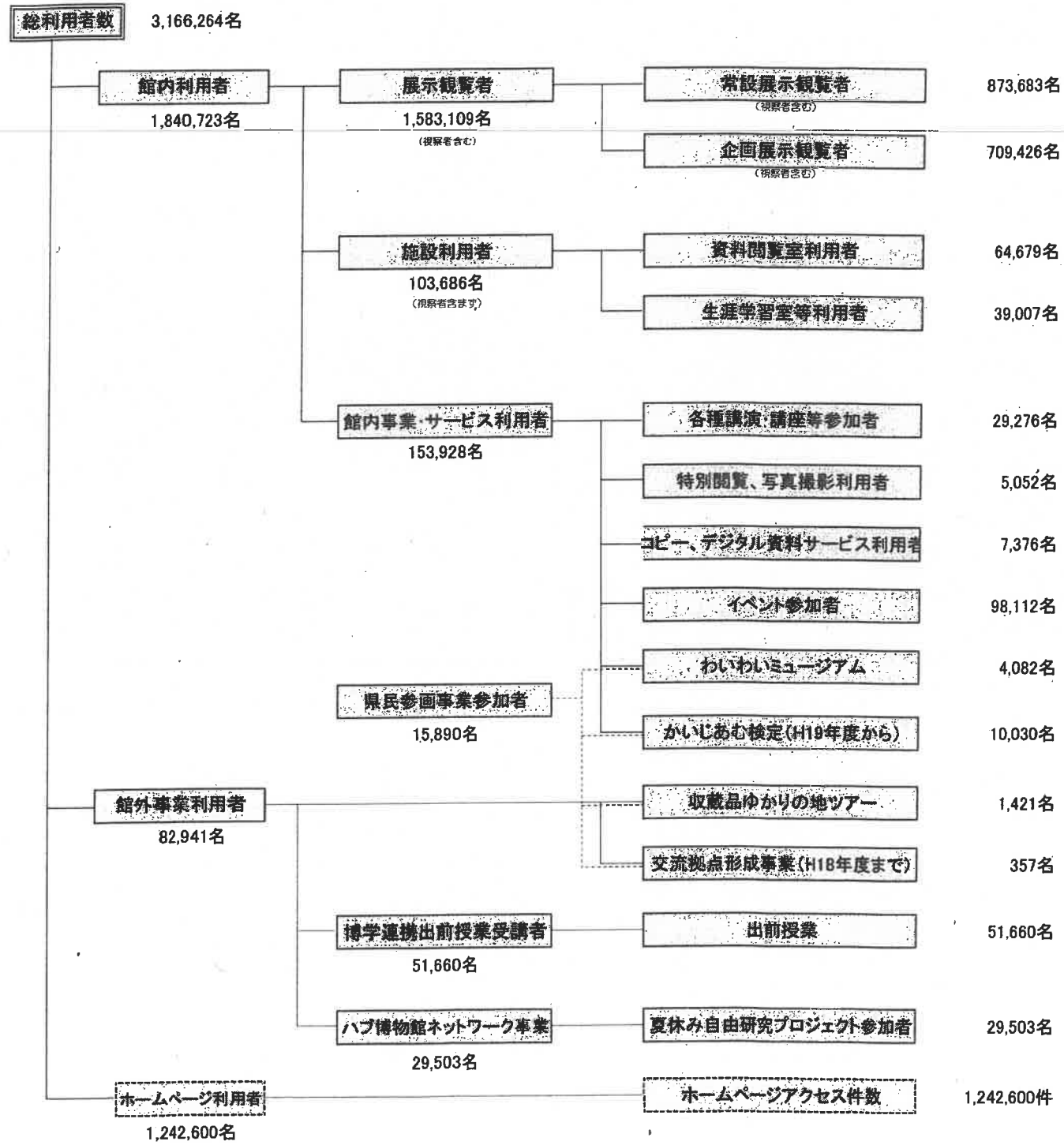
資料5-1

令和2年10月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。

なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和2年10月末日までの状況をまとめている。



博物館の利用者の状況について

■ 年度別統計

2020.10末現在 県立博物館

	館内利用者 (a+b+c)												館外利用者				入館者セン サーデータ	ホームペー ジ 利用者					
	展示利用者 (a)						施設利用者 (b)						館内事業・サービス利用者 (c)					出館図書等 貸し出しキット 外部講座	県民参画事業 取組品ゆかり のグッズ	交流拠点 ネットワーク等	ハブ博物館 ネットワーク等		
	常設展示 (券券数)		企画展示 (観覧)		資料閲覧室 利用者		生涯学習室 等利用者		講座・演習室 利用者		特別閲覧・ 写真撮影等 利用者		イベント 参加者		わいわい ミュージアム 講座(館外)								
	(券券数)	(観覧)	(券券数)	(観覧)																			
2020年度	12,475	11,767	9,864	566	1,253	84	160	9	151	548	44	265	36	203	0	0	923	923	923	0	0	0	69,832
2019年度	116,491	102,198	47,775	2,708	48,306	3,409	5,056	3,200	1,856	9,237	1,602	748	729	5,072	271	815	9,486	4,701	4,701	0	0	4,785	110,903
30年度	111,365	94,208	45,437	2,537	43,629	2,605	5,955	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	3,862	3,862	0	0	4,260	101,670
29年度	131,264	111,640	55,118	2,396	50,704	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	8,653	4,207	4,207	0	0	2,439	98,200
28年度	97,898	79,620	41,133	1,959	33,918	2,610	4,836	2,924	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	6,969	4,327	4,327	0	0	5,744	94,696
27年度	155,517	140,688	57,879	1,705	77,538	3,536	6,032	4,140	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	11,441	5,303	4,434	0	0	869	91,483
26年度	109,888	95,994	47,119	1,130	45,502	2,243	5,961	3,609	2,352	7,983	1,139	278	359	5,312	364	481	78,297	5,548	4,740	0	0	808	85,188
25年度	121,898	106,041	57,860	1,864	43,886	2,431	6,605	4,067	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	88,910	7,220	6,350	0	0	870	83,998
24年度	107,246	91,464	49,341	2,359	37,354	2,410	6,351	2,983	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	71,736	7,110	6,077	0	0	1,033	85,825
23年度	112,026	96,890	49,858	3,030	40,232	3,770	5,758	3,354	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	75,053	4,658	3,721	183	0	754	84,159
22年度	145,519	124,081	56,505	3,281	55,858	8,437	6,137	4,060	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	101,227	3,728	2,670	141	0	917	82,123
21年度	145,172	125,928	59,508	1,876	59,780	4,764	6,394	4,399	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	99,290	5,194	3,871	274	0	1,049	83,449
20年度	97,551	77,681	49,634	1,896	23,785	2,366	8,199	4,754	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	74,423	2,781	1,076	180	0	1,525	69,561
19年度	126,055	109,082	66,291	1,602	39,305	1,884	10,422	7,306	3,116	6,651	1,515	219	496	3,861	240	220	95,348	4,833	1,317	166	0	3,350	72,373
18年度	149,254	127,856	92,277	2,159	31,905	1,515	12,369	7,957	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	124,898	1,576	156	195	125	1,100	70,402
17年度	113,579	99,768	66,274	1,172	32,304	18	8,866	5,252	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	85,348	665	151	282	232	0	28,570
計	1,840,723	1,583,109	842,009	31,674	664,006	45,420	103,886	64,879	39,007	153,828	29,276	5,052	7,376	98,112	4,082	10,030	1,301,264	82,941	51,606	1,421	357	29,503	1,242,606

博物館の利用者の状況について

■ 2020年度

2020.10末現在 県立博物館

	館内利用者 (a+b+c)										入館者センター			館外利用者			ホームページ利用者						
	展示利用者 (a)					施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)		センター	データ	出前授業		県民参画事業			ホームページ					
	常設展示		企画展示			資料閲覧室	図書閲覧室	利用者	特別閲覧室	コミュニティ・デジタル			イベント	わいわい	かいこ	利用者			特別閲覧室	交流拠点	形成事業		
	(発表)	(発表)	(発表)	(発表)	(発表)						利用者	利用者						利用者				利用者	利用者
4月	36	0	0	0	0	0	0	0	36	0	32	4	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	8,108
5月	406	333	292	41	0	0	0	0	73	0	72	1	0	0	0	0	0	230	0	0	0	0	15,148
6月	1,017	968	874	94	0	0	0	0	49	0	48	1	0	0	0	0	0	204	0	0	0	0	9,440
7月	1,953	1,894	1,808	86	0	0	13	0	46	0	37	9	0	0	0	0	0	364	81	81	0	0	10,116
8月	2,307	2,189	2,007	182	0	0	12	0	106	0	23	3	80	0	0	0	0	548	0	0	0	0	9,308
9月	1,862	1,750	1,691	59	0	0	18	0	94	0	27	0	67	0	0	0	0	778	7	7	0	0	8,742
10月	4,894	4,633	3,192	104	1,253	84	117	9	144	44	26	18	56	0	0	0	0	2,675	835	835	0	0	8,970
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12,475	11,767	9,864	566	1,253	84	160	9	548	44	265	36	203	0	0	0	0	5,037	923	923	0	0	69,832

みんなでつくる博物館協議会の開催状況について：15周年目の評価における重点項目と具体的な評価項目

解決すべき課題（10周年終了時）	重点項目	具体的な評価項目（いずれも主として評価方法B：自己評価） ◎…最優先課題、○…努力目標	評価のための資料
<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究成果を積極的に展示に反映し、博物館活動のアピールにつなげる ・山梨県が進もうとしている方向性や時代性を先取りするような展覧会の企画 ・入館者数のみに囚われず、内容を重視した企画展を開催する 	<p>展示と調査研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主展覧会やシンボル展は、開催の前後5年間に、学会発表、学会誌、紀要などにおいて、内容と関連する調査研究成果（資料紹介等を含む）の研究成果の公表が行われたか（◎） ・※新収蔵品の公開は含めない。なお、新発見・収集資料に対する研究成果は、資料紹介等の研究発表に含めるものとする。 ・会場における文字解説では、平易な文章表現を用いるよう心掛けられていたか（◎） ・展覧会は、博物館の基本テーマに沿い、かつ時代に沿った視点を持った内容の提供に努めたか（○） 	<p>各展覧会の企画書、展示状況写真、アンケート集計、展覧会のテーマ、展示資料に係る調査研究成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した情報発信 ・マスコミとの連携強化 ・新聞掲載・講座など、博物館外における一般を対象とした研究成果の公開活動 ・情報の受信と活動への反映 	<p>情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示替えや企画展、館内イベントの情報は告知されているか（◎） ・新聞、雑誌、講座、講演会において、一般向けに研究成果の発信が行われたか（◎） ・各展覧会における情報発信の方法や発信先は適切であったか。また、来館者がSNS等で発信したくなる環境づくりにも努めたか（○） ・※情報発信先については、展覧会ごとの情報発信先についても評価対象とする。 	<p>印刷広報物、HP、展覧会別広報物発送先一覧、展覧会情報掲載紙、職員執筆原稿掲載紙、講座・講演会（職員講師）一覧、館内SNS関係サイン等設置状況、SNS発信状況（県博関連）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けパンフレットなど、発達段階に応じた解説 ・次世代を取り込むような「体験型展示」や活動の展開 ・授業のテイクアウトに留まらない取り組み。例えばその後の博物館活動との連携や授業後の課題解決のフォローなどが必要 	<p>博学連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業や学校見学では、学校教育の授業の枠組みに囚われすぎず、地域にまつわる話題に触れ、山梨の歴史・文化の魅力を伝え、興味をひき出そうと努めているか（◎） ・※出前・学校見学に関する既存の項目を統合。かつ「博物館を利用する学校が立地する地域の話題を盛り込んでいるか」という内容を加筆する。 ・出前授業、学校見学等を利用した児童生徒や教員の感想（出前授業の内容について）（○） ・ティーチャーズクラブと協働するなどして授業研究を行い、新たなメニューの開発や、内容の検討・刷新に努めたか（○） ・※出前授業、学校見学等における教員との事前打ち合わせの有無は触れない。学校ごとの個別の対応よりも、ティーチャーズクラブにおける教員との連携強化を優先する。 	<p>出前授業・学校見学企画書、授業案、当日資料（パワポ等）、ワークシート、ティーチャーズクラブ活動状況</p>

【表3】評価項目

	使命		
	使命1	使命2	使命3
山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶことを目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。	使命3：山梨県立博物館は「成長する博物館」を目指します。
(1) 運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われ、博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館6周年目から開館10周年目までに1,050,000人の総利用者数を目標とします。 山梨県立博物館がどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努めます。 博物館の使命がどの程度達成できたかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者の側からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。 NPOとの協働などをとおして、広く県民が参画できる事業活動を推進し、県立博物館及び山梨県への親しみや関心が深められるように努めます。 		
(2) 調査・研究について	<ul style="list-style-type: none"> 「山梨の自然と人との関わり」の歴史をテーマとした調査・研究を積極的に実施し続けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究機関としての博物館の魅力を高めるために、外部資金の導入などによって積極的に調査・研究を行い、その成果を論文や研究発表などをとおして、広く社会に還元します。また、その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究を積極的に推進します。
(3) 資料の収集、保存及び活用について	<ul style="list-style-type: none"> 資料保存機関としての博物館という魅力をもつために、「山梨の自然と人との関わり」の歴史を明らかにする上で必要な資料の収集・保存に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集及び保管・調査資料の利用体制の充実をはかり、これら資料の目録化（データベース化）を進め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能となるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料の活用を図り、展示やホームページなどをとおして、新たな資料情報を積極的に公開します。
(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> 展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わり」の歴史を積極的に多くの人々に向けて発信し続けます。具体的目標としては、開館6周年目から開館10周年目までに502,000人の利用者数を目標とします。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続けます。具体的には開館6周年目から開館10周年目までに41,000人の学校利用者数を目標とします。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズや調査・研究の進展に対応して、企画展の開催や、年間をとおした常設展示の展示替えを行います。
(5) 企画交流活動について	<ul style="list-style-type: none"> 県内外に対し、「山梨の自然と人との関わり」の歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに応じて、企画交流活動の内容の見直しや新規の立案に努めます。 大学や図書館、研究団体など、新たな施設・団体との連携の強化に努めます。

(6) 施設の整備・管理について	<ul style="list-style-type: none"> 山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 魅力あふれる「山梨の自然と人との関わり」の歴史」を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に進め、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館6周年目から開館10周年目までに69,750人の利用者数を目標とします。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに応じ、未来に向けた新たな博物館のあり方について検討します。
(7) 情報の発信と公開について	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） 緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） バリアフリー対策を行っているのか？（評価方法B） 資料保存について措置を講じているのか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 国宝・重要文化財を展示する公開承認施設に指定されているか？（評価方法B） 展示施設の新規整備やその活用が図られているか？（例えば、体験型展示の充実など）（評価方法B）
(8) 市民参画について	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶことについて支援することに努め、レファレンスをおし開館6周年目から開館10周年目までに3,000人が知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばHPをとおした場合は開館6周年目から開館10周年目までに400,000件のアクセス数を目標とします。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを使用した博物館通信の送信や館外におけるPRなど、新たな広報活動の取り組みに努めます。
(9) 組織、人員について	<ul style="list-style-type: none"> NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動を実施し、協働事業では開館6周年目から開館10周年目までに4,500人と交流できるように努めます。 NPOや協力会（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） 協力会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） 協力会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか一覧表がなされているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> HPアクセス数（評価方法A） HPの更新や利用者ニーズに応じた内容の検討を行っているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の成長や運営改善に向けて反映するよう努めます。 利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC）
(10) 外部支援と連携について	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 職員各自の資質向上に関する研修を実施したか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。 第三者機関（運営委員会、みんなで作る博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 職員各自の資質向上に関する研修を実施したか？（評価方法B） 第三者機関（運営委員会、みんなで作る博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援と連携について	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めるとともに、地域連携を図ります。 館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B） 山梨県内外における歴史・民俗系博物館等との連携を図っているか？（評価方法B） 文化財レスキューなど、県立博物館が地域社会を支援する体制の整備に努めたか？（評価方法B） 		

<参考資料>

山梨県立博物館総合評価報告書
— 開館10周年目までにおける評価結果 —